

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	プログラミング
科目基礎情報						
科目番号	0005		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子機械工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	「スラスラわかるC言語」岡嶋裕史著 翔泳社、「スラスラわかるC++」矢沢久雄著 翔泳社／配布プリント					
担当教員	藤井 正光					
到達目標						
1. C言語によるソフトウェア開発に必要なツールを利用する事ができる 2. データ型や構造体、クラス の概念を理解し、利用する事ができる 3. 与えられた課題を満たすC言語プログラムを作成する事ができる						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ソフトウェア開発ツールのデバック等の機能を行いて、課題を満たすプログラムを設計し、実行ファイルを作成できる	ソフトウェア開発ツールを起動し、プログラムを記述し、実行ファイルを作成できる		ソフトウェア開発ツールを実行する事が出来ない	
評価項目2		課題に対し、選択すべきデータ型やデータ構造を決定する事ができる	データの型やデータ構造を複数挙げる事ができる		データの型やデータ構造を挙げる事ができない	
評価項目3		課題を満たす、配列やポインタを用いたプログラムを設計し、記述する事ができる	配列やポインタを用いた簡単なプログラムを設計できる		配列やポインタを用いたプログラムを記述できない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要		C言語とC++を用いた基礎的なプログラミングを行う。 ソフトウェア開発ツールの機能を利用して、効率的にプログラムを設計する能力を身に付ける。				
授業の進め方・方法		・ 随時、出題する課題についてプログラミングし提出すること ・ 定期試験テスト前後には、重要な箇所についてレポート課題を課すので、期限に遅れず提出すること				
注意点		・ プログラムの作成・入力を行うので、タッチタイピングを習得している事が望ましい ・ 本授業では、1年次に履修した情報工学基礎のC言語の内容を利用するので、復習し理解を深めておくこと ・ Black Boardを用いて課題の提出を行うため、Black Boardの利用に慣れておくこと				
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	開発環境の設定と利用 1		開発環境を用いてコンパイルと実行ができる	
		2週	開発環境の設定と利用 2		ブレークポイントやウォッチ機能を利用して、デバックを行える	
		3週	異なるデータ型の変数の宣言と表示		整数型、実数型、文字型などのデータ型を説明できる 異なる型の変数を宣言し、printf関数を用いて表示できる	
		4週	四則演算		適切なデータ型を利用した、四則演算のをプログラムを作成できる	
		5週	条件分岐		条件分岐を利用したプログラムを作成できる	
		6週	繰り返し処理		繰り返し処理を利用したプログラムを作成できる	
		7週	配列 1		1次元配列と2次元配列の概念を理解し、配列を初期化できる	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	配列 2		配列を利用したプログラムを作成できる	
		10週	関数 1		関数の概念を理解し、動作確認できる	
		11週	関数 2		返り値のない関数を設計できる	
		12週	関数 3		整数型の返り値を持つ関数を設計できる	
		13週	関数 4		配列を引数とする関数を設計できる	
		14週	関数 5		再帰関数を使用できる	
		15週	前期期末試験			
		16週	試験返却・解答		試験返却・解答	
後期	3rdQ	1週	ポインタ		アドレス演算子と間接参照演算を用いたプログラムを設計できる	
		2週	配列とポインタ		ポインタを用いて、配列を参照できるプログラムを設計できる	
		3週	関数とポインタ		アドレス渡しによる関数の呼び出しを行うプログラムを設計できる	
		4週	コマンド引数		コマンド引数による値の受け取りを行うプログラムが設計できる	
		5週	グローバル変数		グローバル変数とローカル変数の違いを説明できる	
		6週	ファイルの取り扱い		ファイルからのデータ読み出しとファイルへのデータ書き込みを行うプログラムを設計できる	
		7週	コンソール入出力		コンソール入出力を利用したプログラムを設計できる	
		8週	後期中間試験			

	4thQ	9週	構造体 1	構造体の概念を理解し、構造体の宣言オブジェクトの定義ができる
		10週	構造体 2	構造体のメンバを初期化し、値を入力するプログラムの設計ができる
		11週	構造体 3	構造体を引数とする関数の設計ができる
		12週	クラス 1	クラス概念を理解し、クラスの定義ができる
		13週	クラス 2	メンバ変数を利用したプログラムを設計できる
		14週	クラス 3	メンバ関数を利用したプログラムを設計できる
		15週	後期期末試験	
		16週	試験返却・解答	試験返却・解答

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	情報リテラシー	情報リテラシー	数値計算の基礎が理解できる	2	前3
				データの型とデータ構造が理解できる	2	前2

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	20	0	0	0	20	0	40
専門的能力	30	0	0	0	30	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0